

会 議 報 告 書	
会 議 名	第 2 回草津市中学校スクールランチ検討委員会
日 時	平成 2 5 年 7 月 2 3 日 (火) 午後 2 時 0 0 分から 4 時 0 0 分まで
場 所	市役所 5 階 5 0 2 会議室
出 席 者	委 員：1 0 名 事務局：高岡課長、水野参事、石松 傍聴者： 0 名
欠 席 者	委 員： 0 名
会議・打ち合わせ事項の関係書類 <input checked="" type="checkbox"/> 有 (別添のとおり) <input type="checkbox"/> 無	
記録作成者	草津市教育委員会事務局 スポーツ保健課 スポーツ保健G 石松 恒人

事務局：

皆様本日は大変お忙しい中、お集りいただきありがとうございます。前回の委員会の中で御説明させていただきました草津市教育委員会附属機関運営規則の第 6 条の中に、附属機関の会議は委員の半数以上の出席がなければ開くことができないと定められております。本日は、1 0 名の委員の皆様にご出席いただいておりますので、第 2 回草津市中学校スクールランチ検討委員会を開催させていただきます。それでは開会にあたりまして、久保委員長より御挨拶をお願いしたいと思います。よろしくお願ひいたします。

委員長：

本日は暑い中、皆様ありがとうございます。前回は、1 回目ということで、皆様からいろいろな方向からたくさんの御意見をいただけたと思っております。ありがとうございます。本日も、草津市の中学生たちが食べることをしっかりとできるように良い方向に議論を進めていきたいと思っております。皆様、本日もよろしくお願ひいたします。

事務局：

ありがとうございます。それでは、委員会の運営規則第 5 条第 2 項により委員長は会議の議長となると定められておりますので、これよりの議事進行を久保委員長にお願いしたいと思います。どうぞよろしくお願ひいたします。

委員長：

それでは、次第 2 の前回の議事概要について、事務局から説明をお願いいたします。

《事務局 資料 1 - 1、1 - 2 に基づき説明》

委員長：

ありがとうございます。いま説明いただいたこと、また議事録も見ていただいて、不明瞭と感じられたところや判りにくかったところ、自分がおっしゃったところが違うように書かれてい

るところ、また質問や追加意見等がございましたら御発言いただきたいと思います。いかがでしょうか。

委員：

議事録は情報公開の関係でホームページ等に公開するのでしょうか。公開するのであれば、語尾も含めて細かな点については、修正いただいたほうが良いと思います。

事務局：

検討委員会や審議会等の附属機関につきましては、条例・規則の中で原則は公開するよう定められております。ただし、個人情報等が関係する場合には非公開とする場合がございます。今回の委員会については、原則公開ということで、会議の開催や傍聴の案内、議事録等も公開させていただきます。また、いま御指摘いただきました語尾や文言について、もう一度確認のうえ、修正をさせていただきたいと思います。

委員長：

資料の1-2がホームページで閲覧できるようになるということですか。その場合、発言者の名前も出るのですか。

事務局：

委員長の発言につきましては、「委員長」として出させていただきますが、他の委員につきましては、「委員」の発言として、会議資料とともにホームページに公開させていただきます。

委員長：

他に御質問等よろしいでしょうか。前回は話題になっていましたが、この委員会としては、資料1-1の2ページの中ほどにある現行のスクールランチの充実という方向で進めるということになります。

それでは、第1回の議事概要と会議報告書につきまして、細かい文言等の修正を含んだうえで、御承認いただける方、挙手をお願いいたします。

《委員全員挙手》

全員の方に挙手をいただきましたので、これで承認をさせていただきます。

では次に、次第3の本市中学生の朝食摂取状況・昼食弁当持参状況等について、事務局より説明をお願いいたします。

《事務局 資料2に基づき説明》

事務局：

補足をさせていただきますが、家庭弁当を持参しにくい生徒の人数のところ、前回の調査報告書の中では50人、今回の当初の調査で5人、最終的な聞き取りを行うことで16人という人数をつかんでおります。この違いにつきましては、前回の調査は各教職員へのアンケートで、担任の先生ですと、そのクラスの中で、家庭弁当を持参しにくい生徒の数を答えていただき、その数を積み重ねて50人という人数となっています。今回はそのときの50人がどの生徒かというところまでの情報が残っておりませんので、追跡調査ができていないということがあります。ま

た、その時点でどうだったかという調査であり、2、3か月を見る中で持参しにくい生徒ということの答えではありませんでしたので、今回の調査と若干ずれが出てきております。各学校へ聞き取りをする中で、弁当を持参できるようになった御家庭、生徒さんもあれば、16人については家庭の手作り弁当を持参できない状況であるということも補足させていただきます。

また、前回、業者弁当の金額についての話が出ていましたが、各学校によって業者弁当の金額は異なっていますが、全て300円台です。安いところで310円、高いところで380円となっており、4つの業者が入っています。平均的には350円が一番多くなっています。

委員：

保護者への通知について、保護者の立場としては、この通知を読むと本当に特別な理由がないと注文してはいけないという受け取り方をしました。気軽に利用できる状況ではない文書かなと思いました。今日の朝忙しかったので、弁当ができなかったから、学校でスクールランチを頼めるような雰囲気ではないような文書に思います。そういうところが、利用につながらないのではと思いました。

事務局：

注文の方法として、学校現場で教職員にできるだけ負担をかけないために、前日までに申し込みを受け付けるという方法で行っております。また、前回の平成20年度の検討委員会の中では、家庭弁当持参の良さというところが議論として出てきましたので、そのことを基本としつつ、現段階でスクールランチについては特別な場合への対応という位置づけになっております。ただし、御指摘のとおり、保護者の皆様からすると、このままでは頼みづらいということがありますので、今回の審議の中で、制度自体がもう少し変わることになると、それに伴ってこの文書についても変わってくると思います。

委員長：

保護者あての文書の下の方に三つの文が並んでいますが、二番目の「購入して持ってきてください」という文書が、三番目の「スクールランチを利用してください」という文書より先にきているという点については、意図を持って、この順序となって書かれているのですか。教育委員会で二番目の「購入して持ってきてください」という文書と三番目の「スクールランチを利用してください」という文書とを入れ替えるという方針はあるのでしょうか。

事務局：

スクールランチとなるお弁当自体や中学校現場への負担のかからない注文方法など、全てを含めて考えたうえで、二番目と三番目を入れ替えるということはありませんが、今の制度の中では、どうだろうかと考えています。

委員長：

先ほどの説明の中に50人が16人に減った理由として、学校の周辺にコンビニが増えており、おにぎりやパンを買って持ってくる生徒が増えているとありましたが、二番目の「購入して持ってきてください」という部分が充実しているからとも受け取れます。子どもが学校に行くまでに買い物をすることはどうだろうかと思うところがあります。そういう意味で、スクールランチを買ってくるお弁当に変えましょうという話になっても良いのでしょうか。

委員：

今回の委員会での討議について、今の話を聞いていますと、スクールランチの利用者を増やしたくないのかとも受け取れます。しかし、栄養面から考えると、内容の検討は必要ですけれども、増やしていこうという位置づけで集まっていると思っていましたが、どちらでしょうか。

事務局：

もちろん増やしていくという方向で考えています。ただし、今のスクールランチの方法で、教職員が食べている業者弁当を家庭弁当の代わりに生徒に食べてもらうことを増やしたいとは思っておりません。コンビニのパンやおにぎりを持ってくる方が良いのか、教職員が頼んでいる弁当を頼んだ方が良いのか、どちらが良いのかは事務局としてはわかりませんが、今の業者弁当がスクールランチとして、栄養面も考えたものとなって、注文の方法もスムーズなものとなった場合は、おそらく、コンビニで買ったものよりも良いものだろうと思っておりますので、そのときには、この文書の順番が変わってくるかと思えます。

委員長：

先生たちが食べている業者弁当をもっと中学生向けに食べやすいものに変えるということに、私たちが意見を出し合って、新たに方針を打ち出した場合、それが進む可能性があるということですね。

事務局：

そういうことです。とりあえずできることをということで、この文書を変えるというのは、今回の委員会の趣旨とは違うと考えます。

委員：

当初、スクールランチが始まったときに、現場はどのように動くのかという不安がありました。スクールランチをどのように進めていくのか、趣旨がどの方向なのかわからない中で、お弁当の良さが一番あって、保護者と子どもたちがお弁当を通じてコミュニケーションを取ることを前面に押しつつも、スクールランチが始まったときに、現場の不安はありましたが、システムとして、注文漏れなどにより子どもたちが食べられなくなることを避けるために、教頭が窓口となって行われています。今の形のままで利用が増えると、受付やお金の受け渡しも含め、ややこしくなってくると思います。他市の方法を見ていると、ずいぶん違いがあり、どこが良い悪いというわけではありませんが、守山市のやり方ですと現場は非常に大変だろうなと思いました。一方で、大津市のやり方は、現場にとってはスムーズでわかりやすいと感じます。そういう面も見つつ、漏れなくきちんとしていかなければいけないので、スムーズにできる方法も考えて、段取りを組んでいかなければいけないと思います。

委員長：

それでは、他市の状況の話も出ましたので、次第4の近隣市のスクールランチ事業について、説明いただいてもよろしいでしょうか。

《事務局 資料3に基づき説明》

委員長：

大津市については、各中学校で配膳等を行う部屋を確保しているのですか。

事務局：

販売は、職員室の前などに長テーブルを用意して、配膳員による受け渡しと事前の申込受付を行っています。長机と保冷庫は市の予算で準備しており、保冷庫はクーラーボックスの大きいものと聞いています。また、アレルギーの表示については、ランチメニューにアレルギー7品目の一覧を記載されています。6月3日から8校でスタートされており、全体の利用率でおよそ1.8パーセントとなっております。日によって、また、メニューによって利用者数に差があります。

委員長：

大津市の対象者の人数は何人でしょうか。

事務局：

全体の16校のうち、実施校は半分の8校で、生徒数は5,023人となります。

委員長：

大津市は、全て使い捨て容器が使われています。頼んだもので残っている残菜の量などは、業者しかわからないのでしょうか。

事務局：

食べた後は、直接返却のボックスへ入れるので、把握はされていないと思います。

委員：

お金のやりとりは、業者とありますが、具体的にはどのような形になるのでしょうか。

事務局：

各校に配膳員が来られますので、そのときの受け渡しとなります。

委員：

大津市では、大津給食センターが請け負っておられるのですか。

事務局：

そうです。6月から26年3月末まで契約をされておられます。残りの8校については、9月からすぐにスタートというわけではなく、1次実施校へのアンケート等を踏まえながら、残りの8校についても同じ業者と契約を進めていくとのこと。

委員：

大津市のスクールランチ事業実施方針の3ページの最後のところに利用率は2%を想定するとありますが、この根拠は何か聞いておられますか。業者の利益のラインなののでしょうか。学校としては、何十パーセントと多くなると大変であると思います。草津市も実態は大津市と変わらないでしょうから、同じような2%という想定ができるのでしょうか。

事務局：

大津市の想定としては、根拠も出しておられて、家庭弁当を持参していない生徒の割合が約5パーセント弱、その中でスクールランチを希望する人の割合が60～70パーセントあり、価格で400円台であればどの程度の利用希望があるかを掛け合わせて算出しておられるようです。また、前回の会議の中で、平成20年に検討した際に、業者へ調査した内容では、草津市は6校で、1校当たり30食ないと難しいとのことでしたが、今回、この大津市の実績を学校数で割り戻すと1校当たり10食ほどになります。スケールメリット等もあるでしょうが、もう少し業者さんへ、どのくらいのバランスで、経営として成り立つかという調査も行ってまいります。

委員：

業者のお弁当を学校の先生方が注文される際には、配送料はかかっているのですか、お弁当代に含まれているのですか。例えば、先ほどの説明の中で、守山市は配送にかかる費用が計上されているとありましたが、費用として、必要になってくるものなのでしょうか。

事務局：

現在の草津市のスクールランチにつきましては、業者が学校に配送に来られる中で、それをスクールランチとして利用させていただいているような状況なので、配送料は業者負担となります。大津市や守山市、彦根市は、新たに作った弁当を配送してくださいという形になるので、事業として委託をされています。

委員長：

先生方は、お弁当の料金の中に配送料が入っているものを食べているということですか。

事務局：

一般的にお弁当業者は、何百個か作って、注文が入ったものを配って回り、残りのものを他の場所で販売するというような形で行っておられるのかと思います。または、今回のように、市からこれだけの数をこういうやり方で作って、配送してくださいと委託を受けて行っています。守山市の場合は後者の方法で、配送料という委託料で行っています。

委員：

業者の作るメニューですと数が出ますので、その中に配送料を入れることができますが、他市のスクールランチは特別に作っておられるので、別に配送料が必要となるのでしょうか。

また、大津市は非常に利用者数が多いですが、利用者の特徴はあるのでしょうか。南草津などは、共働きの家庭が多く、祖父母が傍にいないので親だけで子育てをする世代が多いと思います。そうすると弁当作りが親のプレッシャーになっていて、大津市と状況が似ているのではないかと思います。

委員：

大津市はスクールランチの目的として、保護者の負担の軽減を趣旨として出されています。他の市と草津市に関しては、基本は家庭弁当、次に買っていく食べ物というように趣旨が違うような気がします。全員にスクールランチを食べてもらおうというようには進めておられないと思いますが、保護者から見ても大津市のチラシはすごく魅力的であり、力を入れておられると感じますし、子どもの心もつかめているなどと思います。ただし、やはり家庭弁当に重きを置いて、ま

ずは家で作ってみましょうということを趣旨に市として推進していくのであれば、ここまで力を入れる必要はないと思います。

委員長：

大津市は、保護者への説明はどのように進められたのでしょうか。チラシを出すだけでなく、開始に当たって何か広報が行われたのでしょうか。

事務局：

広報おおつの12月1日号にて特集記事を組んでおられます。また、利用ガイドを作成して、よくある質問にお答えしますという項目で、具体的な説明を行っておられます。

委員

草津市の通知文について、あまり積極的に手をあげることができないように感じるという意見がありましたが、このスクールランチ制度が発足した当時は、最低限のセーフティネットを作るという形だったと思います。今は状況が変わってきて、もう少し本腰をいれて、セーフティネットを幅広く、質の向上も目指そうという流れになっていると思います。そして、大津市、守山市、彦根市の3市を見ますと、大津市の利用率が高くなっています。その理由を考えますと一つ目は値段設定の400円というところで、コンビニで買うと400円を越えることがありますが、守山市は500円となっており、コンビニの方が安いとってしまいます。彦根市は320円と安いのですが、1か月前の申し込みやお箸の用意などの煩わしい面があります。大津市は前日申し込みができて、400円であり、お箸がついてきて、空き箱も回収してくれて、ご飯の量も選択できます。こういったところで利用につながっていると思われます。学校側にとっても、未納の場合は業者が対応と至れり尽くせりの内容となっています。

事務局：

大津市、守山市、彦根市で生徒数の違いはありますが、大津市は1食400円、守山市は500円、彦根市は320円となっており、守山市の500円は頼みにくいと思われます。その他の部分の負担は、保護者の負担も学校の負担も教育委員会の負担も大津市の負担が一番少ないと感じます。彦根市がその次、守山市の負担が一番大きいと感じます。それに反比例して、事業費が大津市は1000万円弱、彦根市が400万円弱、守山市が27万円弱となっており、そのあたりのバランスを考えることも必要となります。

委員長：

大津市は、容器の回収が不要であったり、お箸がついていたり、便利ではありますが、子どもたちへの食育面を考えると、彦根市のようなお箸だけは持ってきて自分で洗いましょうとか、そういった視点もあつたほうが良いように思います。ただし、業者に全て委託をすれば、学校側の負担も少なく、間違いが起こりにくいという安心なところはありますが、費用が高くなってしまいかもしれないということもあります。そこで、どこまで草津市が委託料を出すのかという問題と、最初に言いました食育の観点から子どもたちへの影響について、どのようなやり方でスクールランチを行うかということを考える必要があります。そのあたりについては、いかがでしょうか。

委員：

食べ物をいただくときに、持ってきてもらったものをただ食べますということではなく、家庭でも気にするところではありますが、何か関わりを持ったほうが良いと思います。

委員長：

給食などでも残菜が増えてくる年頃と聞きますし、業者に回収されて、どれだけ残したかわからないという状況は、問題はないのだろうかとも思います。

委員：

残菜については、献立が付いているので、選んだものを残すことは少ないのではないかと思います。仕事を持つようになって、正直、お弁当を作ることが煩わしく思うこともありましたが、そういう時の手助けという意味では、大津市のチラシを見て、いいなと思いました。子どもが大きくなると、晩ご飯を食べる時間もバラバラになってくるので、お昼ご飯は私が作ったものという気持ちはありますが、保護者の休息という意味では、大津市のスクールランチのチラシを見ると少し気持ちが和らぐように感じます。草津市のスクールランチですと、コンビニなどで買ってくる方法を選ぶと思います。スクールランチの趣旨について、保護者の負担軽減をと思うのか、保護者にお弁当の部分では頑張っていたきたいという方向に持っていくのかですが、ただやはり、仕事を持っていて、忙しいという保護者の声は大きくなっています。

委員：

大津市の委託料について、市からの税金の持ち出しが多いほど、お弁当が安くなると思いますが、この委託料をお弁当代に乗せると、400円ではできずに600円や700円になってくると思います。この背景には、大津市の市長が選挙の公約の中に入れてられていて、これだけの税金を持ち出して実施されているという印象です。一市民として考えますと、お弁当の委託料に800万円の市の税金をという思いもありますし、保護者の立場としては、安ければ利用したいという面もあるかとは思いますが、やはり、800万円は高いと思います。カラーの献立や学校の先生方の負担軽減にかかる配膳員さんの人件費などがこの中に入っていると思いますが、子どものお弁当は保護者が準備することが当たり前と思う方もおられると思います。私も保護者ですが、現実に中学校の世代の保護者の方がどれだけスクールランチを要望されているのか。これまで、PTAの中でそのことが話し合われたのかなと思います。値段が安ければ申し込みますが、あまり高ければ申し込まないですし、自分の子だけが申し込んでいると、周りと比べて特別扱いのように見られて利用しにくいでしょうし、クラスのうちに何人かが食べていたら問題はないでしょうし、そのあたりが気になります。

委員：

何年か前にスクールランチ検討に向けた動きがあったと思いますが、その時に小学校と中学校の子どもがおり、何年か後には中学校も給食になるのかなと期待を持って見ていました。小学生の保護者には特に連絡はなく、中学生の子どもを通じて、検討の結果、給食ではなく現行の基本はお弁当で進めますという文書が来たことを覚えています。中学生の保護者としてはがっかりしましたし、小学校へはそういった情報は伝わっておらず、周囲の方にそのような文書がきたと言うと驚いていましたので、小学校の保護者の中でも期待があったと思います。完全給食なのか、サポート的なものなのかは保護者によって違っていたとは思いますが、お弁当の負担をなくするという期待はあったと思います。小学生しかいない保護者については、今のスクールランチの現状



は知りませんし、それを聞いてがっかりされることがあります。小学校はすべて給食なので、中学校に入ったらお弁当が始まるといった負担感やプレッシャーはかなりあると思います。

委員：

第1回目の会議で、利用したいという潜在的な気持ちがある方が多くいるということが出ていたと思いますが、利用者が伸びていかないというのは何故だろうという話があったと思います。魅力を感じない弁当が第一の理由で、保護者が自分だけ作ってあげられないという気持ち的な理由など、さまざまな理由があると思います。保護者が無理してでも持たせようとするところを手助けできるようなものがあれば、利用するのかなと思います。親や生徒がスクールランチとはどういったものか知ることと、食べたくなるような、食べさせたくなるようなお弁当が、安いコストでできることが望ましいと思います。

委員長：

それでは次第5の本市中学校スクールランチの充実について、事務局から説明をお願いします。

《事務局 資料4-1、4-2に基づき説明》

委員：

弁当業者は2社が入っていて、30人ほどの教職員が天津市のスクールランチと同じように、1か月のメニュー表から注文しています。そうした中で、お金を払い忘れていたり、お釣りを取り違ったり、お弁当を取り忘れてたり、注文していると思って、取り間違ふことさえあります。教職員同士ですので謝ることで許されますが、生徒の分であったら許されません。天津市のように学校で現金を扱わない方法をベースに考えることが望ましいと思いますし、また、最近では200円台でもいい弁当が売っているので、300円台が一つのベースだと思います。

委員長：

学校現場の負担を考えると、天津市のように業者が全て実施してくれるのはいいと思いますが、お金がすごくかかります。彦根市の場合、185万円は配送だけで、配っているのは職員室で先生方です。

委員：

最近では事前チケット販売という方法が人気があります。半期分のチケットを購入してもらって、事前にチケットを渡します。業者にとっても事前にお金が入ってくるというメリットがあります。

委員：

他市のスクールランチは、先生方も注文しておられるのですか。

事務局：

天津市は、利用率には入っていませんが、先生方も注文されています。守山市についても申し込まれていますが、最高30食ということで、あまり先生方ばかりが頼み過ぎないようにということもあります。彦根市についても、先生方も注文できるようになっています。

委員長：

そのときのお弁当の金額はどのようになっているのでしょうか。

事務局：

同じです。

委員：

草津市の場合は、対象となる生徒数が少ないという結果になっていましたので、安い値段でなるべく良いものと思うと数を頼まないことには、難しいことだと思いますし、委託料をたくさんかけるとなっても、すごく少人数のために何百万円もかけることになってしまって、話が違ってきってしまうと思います。例えば、子どもたちに周知する方法の改善として、先生方が教室でスクールランチを食べているところを見て、おいしそうと思えるような、大津市のようなお弁当であれば、頼んでみたいと思うきっかけになると思いました。また、量の調整について、必要なカロリーは男女で異なりますし、小学生以上に体格差も出てきますので、量が選べると自分にあつたものを食べられるという食育の面でもいいと思いました。ランチボックスの工夫も挙がっていますが、大津市の詳しい資料を初めて見せていただいて、メニューもかわいらしく興味が持てるようにできていますし、子どもたちも興味が持てる形でよいものが提供できたらいいなと考えていました。

事務局：

現状のセーフティネット的なところに留めておくのか、どれだけの市税を投入するのかという中で、できるだけ多くの人ということになると、気軽に頼むということが教育的な側面でのいかどうかということも考えなければなりません。どこにポイントを持っていくかというところが一番難しいところになります。

委員長：

やはり、配送されてから渡すまでのやり取りのところが業者に頼むとすごくお金がかかりますし、学校現場で行おうとすると、一人では難しいですし、複数人に数時間お願いすることになります。

委員：

今は頼む生徒が少ないので、教頭先生がやってくれていて、生徒が取りにきて渡していますが、人数が増えてくるとうまくいくのかなと思います。

委員長：

子どもたちが相手ですと、間違えることはできないので、教職員とは別に現場に人を配置することが必要となりますが、事務局として、そのことについてはいかがでしょうか。

事務局：

委託料の中に含めて業者に人の配置をお願いするのか、臨時職員などを雇って配置するのかといった方策はいくつかありますが、先ほどからの話と同様に、経費をどれほどかけるのかという話になると思います。委員会の中でおっしゃっていただいた現場に負担のかからないやり方ということとは、この委員会のまとめとして、残していきたいと思えます。

委員：

お弁当代を安くすれば、受け渡しにかかる費用が高くなるのでしょうか。

事務局：

例えば、小学校の給食ですと費用は食材代のみとなっています。給食センターを建てる費用や燃料費などは市の税金で賄っています。スクールランチも同じ考え方に近いものになると思います。全体にかかった費用を頼んだお弁当の数で割ると非常に高くなります。300円台から400円くらいまでであれば、ある程度の発注が見込めるでしょうが、400円以上ですと、コンビニでということになりますので、折り合いをつけていかなければならないと思います。

委員長：

それでは、次第6の次回の協議内容と次第7のその他について事務局から説明をお願いします。

《事務局 次回の協議内容とその他について説明》

事務局：

本日いろいろな角度から御意見をいただきましたので、事務局で整理をしたうえで、次回に御提案させていただきたいと思いますが、一つは、本日の論点について、業者へ調査を行って、提供させていただきたいと思います。もう一つは、大津市と彦根市、守山市の制度について、比較できるような表を御提案させていただきたいと思います。

委員：

大津市のもう少し詳しい資料があれば、御提案をお願いします。

委員長：

スクールランチを配るときは、各学校に何人いらっしゃるかわかりますか。

事務局：

大津市は配膳員の方が各校に1名です。配送は事前にされますが、配膳は1名となります。

委員：

大津市の一枚当たり10食というのは、どのような数ですか。

事務局：

一枚当たり10食というのは、利用率2パーセントと考えるとおそらくおよそ一枚当たり10食ほどになります。

委員：

これから、どのくらい利用者が伸びるのかわかりませんね。

委員長：

いまは始まったばかりなので多いのかもしれない。

事務局：

大津市のスクールランチの実績ですと、メニューによって注文数に差があるようです。例えば、鮭の塩焼きだと注文数が少なく、ハンバーグだと多くなっています。

委員：

冷凍食品も充実してきていますし、子どもが嫌いなものを入れるのには勇気がいるので、保護者が作るお弁当が何より栄養価が良いとは一概には言えないかもしれません。

委員：

子どもがお弁当がいいというのは、嫌いなものが入っていないからということもあります。保護者は、全部食べてもらえるようなメニューをお弁当に入れていると思います。

委員長：

お時間になりましたのでこれで終わりたいと思います。

事務局：

本日も長時間にわたりありがとうございました。例えば、大津市のスクールランチのチラシのようなものが家庭にあれば、保護者の心のセーフティネットになるのかなと思いますし、それぞれ子どもの好みがあるので、月に何日かスクールランチを頼む日が決まれば、後はお弁当のメニューを重ならないように考えてもらうようなやり方もいいのかと思います。また、お弁当を持参しにくい生徒の16人という数字が全体としては少ないかもしれませんが、その子どもたちがどのような環境にあるのかもいろいろな状況があると思いますので、税金をかけてもスクールランチで栄養面がフォローできるのであれば、理解もされると思いますので、いろいろな意見を整理させていただいて、まとめをしていきたいと思います。次回もよろしく願いいたします。